

事業所名: 国分寺Jキッズステーション

平成30年度
東京都福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

25

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 104-0061

所在地 東京都中央区銀座6-6-1銀座風月堂ビル5F

評価機関名 合同会社 福祉経営情報サービス

認証評価機関番号

機構 07 — 172

電話番号 03-5537-7750

代表者氏名 渡邊廣貴

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	渡邊廣貴	経営	H0403033
	②	河原優佳里	福祉	H1501012
	③	勝田憲之	福祉	H1601011
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	国分寺Jキッズステーション			
事業所連絡先	〒	185-0021		
	所在地	東京都国分寺市南町3丁目20番3号		
	Tel	042-359-1188		
事業所代表者氏名	長谷川 愛			
契約日	2018 年	12 月	3 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2018 年	12 月	3 日	
利用者調査結果報告日	2019 年	1 月	24 日	
自己評価の調査票配付日	2018 年	12 月	3 日	
自己評価結果報告日	2019 年	1 月	24 日	
訪問調査日	2019 年	2 月	13 日	
評価合議日	2019 年	3 月	13 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業評価: ・経営層記入事項について、課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り、現状の把握に努めた。 ・訪問調査ではサービス担当者による現場視察を午前中の時間に行い、サービス提供場面を極力把握する事に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☐ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)その子らしさを大切にした保育の実施 2)地域に根差した保育園 3)子どもも保護者も職員も『ここよかった』と思える保育園 4)職員が保育を楽しむことができる職場
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・人の気持ちがわかる人 ・信頼される人 ・良い面を見極められる人 ・悪い面を口にしない人 ・人のせいにしない人 ・コミュニケーションがとれる人 ・社会人としてのマナーを持った人 ・明るく挨拶ができる人 ・責任感のある人 ・正直な人 ・約束を守る人 ・バランスよく仕事ができる人 ・報・連・相ができる人
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 社会福祉施設としての社会的役割 保育所職員の社会的立場の向上 保育所職員の専門性 地域資源としての役割

調査対象

保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。
子供総数：70世帯数：58

調査方法

・調査票と調査項目：東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。
・回収方法：回収期限を設定し評価機関への直接郵送。
・事業所への報告：自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

70
58
58
27
46.6

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の81%、「満足」が15%、「どちらともいえない」4%(1件)であり、「大変満足」「満足」の選択が全体の96%であった。また、回収率は高くはないものの、「大変満足」が81%と非常に高い評価結果となった。

総合感想の自由意見では、「園の雰囲気は家庭的であたたかいです。全員で見守ってくれている空気感があります。」「園の体制についてはとても安心感があります。和気あいあいとした雰囲気を感じます。」「この保育園に通わせる事ができて、親にとっても子にとっても、非常に良かったと感じています。」「全てに対して100点満点の保育園だと思います。不満に思う事はありません。」等、満足感を伝える感想が多かった。また、「職員の皆さん、誠実に保育や保護者への対応をしてくださっていると感じています。」等、職員の対応についても高く評価する意見が多かった。要望や意見としては行事および行事の写真、外遊びに関する意見が見られた。

個別の設問では問17を除くすべての設問で「はい」の回答が8割を超えていた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」を選択している。設問の自由回答欄には「毎日沢山の事を吸収してスクスクと成長しています。保育園でたくさんの事を学んだり、刺激を受けているのだと感じています。」「クラス担任だけでなく、全てのスタッフが子に対して愛情を持ってくれており、他者との信頼関係を育てている。」という回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」を選択している。設問の自由回答欄には「体操、英語、プールと3つカリキュラムが入っているだけで大満足です。」という回答のほか、「園で歌や手遊びを覚えて家庭でもしている」という旨の回答があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」を選択している。「季節を感じられる食材を使ったバリエーションに富んだメニューが提供されている。」「園での栄養バランスの整った食事のおかげでここまで成長できたと思うばかりです。」「特におやつは素晴らしいです。」「クラス内で行われる調理保育をしてくださるなど、食べ物に対して関心を持てる内容になっていると思う。」等の回答があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	22	3	2	0
回答者の82%が「はい」を選択している。「立地が駅の横という事もあり、園庭がないのは少し残念ですが沢山お散歩に言ったりと安全面に十分に考慮をしてお散歩等に出ているのは非常に良いです。」「姉妹園と比べるとやはり自然が少ない環境ですが、芋掘り遠足などの機会を頂けてとても有難いです。」「午前中のお散歩は外に行けるが、午後はどう過ごしているのかも知りたい。園庭がないので、仕方ない点は充分理解しています。」「もう少し戸外遊びを増やして欲しい。」等の回答があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	24	1	0	2
回答者の89%が「はい」を選択している。自由意見では「とても柔軟に対応して下さい、感謝しております。」という回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	22	5	0	0
回答者の81%が「はい」を選択している。自由意見では「近くに姉妹園があるというのは素晴らしいと思いました。」という回答のほかは「(今後も)対策を心がけて欲しいと願いを込めて『十分』とはしませんでした。」等の回答があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	24	3	0	0
回答者の89%が「はい」を選択している。自由意見では「延期がないのは参加しやすいが、延期しても青空の下で行ってほしいと思います。」等の回答があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	24	2	1	0
回答者の89%が「はい」を選択している。「こんなにまで親切に接して下さいる先生方は他にはいません。どんな相談でも親身になって聞いてくださいます。」「全てのスタッフが日頃から子をよく見てくれている事が、スタッフとの会話の中からも伝わり、信頼する事ができています。」「お迎え時、時間がないと様子を聞けない。面談が、年に1度なのでタイミングを逃さない。」等の回答があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	1	0	1
回答者の92%が「はい」を選択している。自由意見では「工事を行った事で、きれいになりました。」「綺麗ですが換気が足りないのか、たまに空気が悪い気がします。」という回答があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	25	1	0	1
回答者の92%が「はい」を選択している。この設問の自由意見欄に特に回答はなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	25	0	1	1
回答者の92%が「はい」を選択している。「別室で見て下さったりしている。」「小さな怪我があっても適切な処置がされており、連絡帳や口答が確実に引継ぎがあり、信頼できる。」という回答があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	4	0	1
回答者の81%が「はい」を選択している。自由意見では「子ども同士でたいたり、けがをさせたりした場合でも、先生からは特にお話がない事が結構あります。」「いさかいの情報が入ってこないの、わからない。」という回答があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	1	0	1
回答者の92%が「はい」を選択している。自由意見では「一人ひとりの成長に合わせて接してくれていると思います。」という回答のほか、家庭でのお子さんの姿から、大切にされている事を感じていると推察される回答があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	23	3	0	1
回答者の85%が「はい」を選択している。自由意見では「まったく気になりません。」という回答があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	23	3	0	1
回答者の85%が「はい」を選択している。自由意見ではこの設問の自由意見欄に特に回答はなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	23	2	0	2
回答者の85%が「はい」を選択している。自由意見では「とても話しやすい職員の方ばかりなので、その時が来れば話せると思います。」という回答があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	6	1	4
回答者の59%が「はい」を選択している。この設問の自由意見欄に特に回答はなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリ1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
カテゴリ1の講評		
理念や園の想いが園長の言葉でわかりやすく発信されている 法人の理念や園の理念・想いは、毎年の事業計画書への記載や、職員向けに発行されている「職員園だより」で職員に伝えられている。事業計画には重点施策とともに年度の方針が記載され、内容は年度末会議で周知されている。職員園だよりには月の予定や園長コメント、毎月のプロジェクトチームの活動状況が園長の言葉でやさしく語り掛けるように記載されており、4月の職員園だよりでは年度の方針や、保育指針改定の要点等がわかりやすく説明されている。保護者には入園のしおりへの記載のほか、入園説明会の際にスライドを用いて説明している。 職員が誇りを持って保育の仕事に従事できるよう園長は園のビジョンを職員に伝えている 園長は園としてのビジョンを浸透させ、人材を育成する事を自らの重要な職責として業務に従事している。「職員も保護者も同じくらい園を好きになってほしい。」という思いのもと、職員が保育を楽しめるよう職員の意欲を高め、コミュニケーションを良くして良好な組織風土づくりに努めている。保育の統括は主任保育士が現場の中心となり担当している。主任を補佐する副主任1名、現場の声を聴き経営層につなぐリーダー3名の布陣で日々の園運営が行われており、チームワークも良好な状態を保っている様子である。 会議体が整備され、リーダー会議では現場の課題等が話し合われ検討されている 法人の重要事項は法人内会議で検討・決定され、決定事項は職員会議で周知される。職員会議では園全体に関わる議案の検討・決定がされており、職員会議の議案はリーダー会議に上げて検討する事もある。リーダー会議は、毎月、3名のリーダーと、副主任が参加して実施されている。現場の課題や検討事項を話し合う会議であり、各クラス等現場の職員の意見を検討し、経営層につなぐ仕組みとしても機能している。		

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー2の講評			
毎年利用者調査を実施して保護者の意向を把握し、職員意向は何段などで把握している 保護者からは行事実施後にアンケートは行事についてのアンケートを取っている。このほか、第三者評価の利用者調査を自主的に毎年実施して利用者の意向を把握することに努めている。職員の意見はリーダー会議の報告で把握する仕組みがあり、また、正職員は年2回の面談を実施し、非常勤職員についても年1回の面談を実施して職員個々の意見等を聞き取り、把握する機会としている。 地域ニーズや保育事業の動向は、関係機関の会合や法人の会議で把握されている 地域の福祉ニーズや状況については、年2回、国分寺市内の市立保育園に加え市内全ての保育園が参加して開催される国分寺市合同園長会のほか、29年度から発足して年に3、4回開催される国分寺市の私立保育園園長会等から得られている。保育事業の動向等は、法人および法人の園長会からも得られており、園運営の参考にしている。また、法人各園の主任会では各園から報告される情報なども共有し、それらを園運営に活かしている。 事業計画書で年度の課題を明確にして職員に伝え、着実に実行している 事業計画書には年度の方針のほか、年度の重点施策が総括（園運営）、保育、給食、事務の各項目で具体的に列挙されて明示されている。また、各施策には具体的な推進策が明示され、何をどのように進めていくのかが分かりやすく記載されて職員に周知されている。個別施策の実行は、例えば、保護者との保育の共有を目的とした「保育の見える化」では、3歳児クラスで写真入りの保育日誌の作成と掲示等が30年度試行されている等、中期的な視点を持ち、単年度計画が策定され、実行されている。各施策はプロジェクトチームが担当する事も多い。			
カテゴリー3			
3	経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○ 非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリ3の講評

法人研修や園作成のハンドブック、職員園だより等で行動規範等が周知されている

法人で行う新任職員向けの研修では、保育者の姿勢や勤務心得などを1日の研修の中で伝えている。また、保育時の注意事項や守秘義務等については具体例をわかりやすく列記した職員向けのハンドブックを園で作成し、職員に配布し周知している。職員園だよりでは、園長から職員に向け、プライベートでも社会福祉法人の職員としての意識を忘れない事等が適宜伝えられており、行動規範や持つべき倫理観の浸透が図られている。

苦情解決制度が法人・園内で整備され、情報の公開により透明性が確保されている

苦情解決制度については園内の掲示や、「園だより」等の保護者への配布物で受付窓口や連絡先を周知している。また、保護者が意見を伝えたい時は園の入り口にあるポストを利用するよう保護者に周知している。口頭で直接聞き取った内容を含め、園内で得られた保護者の意見・要望は記録に残し、会議で検討し対応と回答がされている。また、得られた内容については法人の園長会で報告されている。法人では年2回第三者委員に報告しており、また、法人のウェブページで受け付けた苦情の内容詳細を公開して透明性を確保している。

地域ニーズに即した一時預かり事業を実施し、また、地域と連携した取組に参加している

0歳3ヶ月から小学校2年生までを対象とした「ポイントサービス」(会員制の一時預かり保育)や「ビジターサービス」(非会員制の一時預かり)を実施して、さまざまな事情を持つ在宅子育て家庭に向けた支援を行っている。駅型保育園という利便性から一時預かりを利用する方も多く、地域のニーズに即した子育て支援サービスとなっている。

地域の連携では民生委員、保育園、小・中学校、児相、子ども家庭センターが参加する年1回の協議会に参加し、地域の問題解決に協働して取り組んでいる。

4		リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○●●)		
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○ 非該当
○ あり ● なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○ 非該当
○ あり ● なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○○)		
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○ 非該当
カテゴリー4の講評				
保育所における危機管理のあり方を検討し、日頃の保育におけるリスクを洗い出している 危機管理プロジェクトを立ち上げており、事故の再発防止と保育所における危機管理のあり方の検討を目的として日頃の保育におけるリスクの洗い出しに取り組んでいる。そのための研修を実施し、ヒヤリハットの検証をして、例えば、食育チームと連携してマニュアルを作成する等、食事、睡眠、水遊び、玩具等の項目でリスクを洗い出し、安全性の向上に取り組んでいる。 危機管理プロジェクトが中心となって事故の未然防止に取り組んでいる 事故報告書には状況及び保護者への連絡、反省や対策等が記録され、その後の事故予防に活かせる内容となっている。ヒヤリハットは発生日時、場所、区分、状況、処置状況、反省点と対策をシンプルに記入する書式で継続的に提出されている。園内で起きたヒヤリハットについて危機管理プロジェクトが中心となって定期的に分析をしている。また、ヒヤリハットは法人でも収集しており、法人内の保育園各園で提出されたヒヤリハットを集計して法人の会議で報告し、情報を共有して園内の会議でフィードバックされている。 ICTを活用し、情報の保護と共有に努めている 重要な書類は鍵付きの書庫で保管されている。ICTを保育業務に活用しており、各クラスにパソコンを設置して情報の入力等を行っている。IT機器の活用度は低くはないため、人事情報等重要なデータはネットワークにつながず保護することや、データのバックアップは業者が管理するなど情報の活用と保護に努めている。職員にはガイドブックや職員園だよりで個人情報保護や守秘義務等について伝えており、また、契約時に守秘義務に関する誓約書を取り、遵守を促している。				

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(○○)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(●●)		
評価	標準項目	
○ あり ● なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
○ あり ● なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ5の講評		
離職が少ないことから安定した職員の配置と職員の育成がしやすい環境である 非常勤職員は園長が面接して採用している。正規職員は園で面接し、その後、法人面接の手順で採用決定となる。29年度は1名も離職していない等、雇用が安定しており、人材不足が生じていない面は強みである。採用後は園内の指導体制のもとで育成している。キャリアパスには段階別に仕事と能力、受講する研修が明記され、これに基づき、昇格・昇給が運用されている。ただし、職員への周知はされておらず、この点は要改善点として頂きたい。 園内のニーズに合った研修を充実させ、工夫して取り組んでいる 研修計画の一覧を作成して計画的な研修受講がされている。法人研修では新任职員、子どもの年齢(クラス)別研修のほか、法人内の他園が行う研修を受講する機会がある。園内では保育指針やカンファレンス、食育指針、応急救護、小児救急、感染症管理、ビデオ研修等を実施しており、園内のニーズに合った研修を充実させ、工夫して取り組んでいる。 参加型の研修が職員間の認識の共有や共感、新たな課題の発見につながっている 新任职員の育成には新人ハンドブックと併せて新任育成制度を定めており、指導担当者が振り返り会議に参加して職員の成長をサポートしている。評価は人事考課表を用いて実施している。評価を含め人材育成は本人に寄り添い、意欲を高める主旨で行われている。研修は参加型の研修を実施している。アイデアが欲しい時はワールドカフェスタイルで実施しており、行事の内容を検討する時などこの方式を用いている。職員の意見や考えを出し合う事を重視して実施することで、会議から認識の共有や共感を得たり、新たな課題の発見につながる事もある。		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 29年度の2月に同市内に法人の新園が開設する予定であったため、29年度は、国分寺Jキッズステーションとして「新園のバックアップ」を行なう事が重要課題となっていた。また、国分寺Jキッズステーションとしても29年度の8月から1月は園の改修工事のために仮園舎で保育を行っていたことから、長年実施していた一時預かりを休業しており、改修完了後の「一時保育事業の再開に向けた準備」も重要課題となっていた。 新園には2,3月に主任保育士と栄養士を派遣し、一時保育については30年度の再開に向け一時、職員を3名配置して準備を進めた。結果として新園が問題なく開園でき、一時預かりについても再開の準備を整えることが出来た。また、改修後、仮園舎から戻った事により、新たな課題も発見できた。 30年度の事業計画では ・5月の一時保育再開に向けた取り組み ・姉妹園のバックアップ ・姉妹園等との交流保育 等が29年度の上記取組と関連して課題として挙げられている。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 29年度の園舎の一時移転と市内の姉妹園開設という大きな事案に対し、29年度の事業計画には「改修工事への取組」として具体的な実施策が記載され周知されている。一時預かりについても休止中の実施事項を明記し、計画通りに取り組まれている。 30年度の事業計画には ・5月の一時保育再開に向けた取り組み ・姉妹園のバックアップ について方針と実施事項が明記され、また、移転中に発見した課題についても計画化されている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

29年度の課題として「給食の業務内容見直し」が挙げられている。背景として、それまで離乳食の担当者を栄養士を中心として実施していたが、土曜などの業務に偏りが生じており、非常勤の栄養士、調理師も担当できるようにする必要性があった。解決のための具体的実施事項として給食職員のローテーション化を図り、OJTを実施しつつ経験させることにより、非常勤職員も離乳食を担当できるようになった。30年度はメンバーを変更しても同様に連携して離乳食対応ができる事を目標として事業計画に記載し、取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

29年度事業計画には「給食の業務内容見直し」が明記され、具体的な実施事項が記載されている。また、29年度の取組を検証した上で、30年度の事業計画にはローテーションにより「全員がどの業務も自信を持って遂行できるようにする」ことで、仕事を通じた「個々の自尊心の向上」および「より一層のチームワークを目指す」ことが記載されている。業務内容の見直しという課題を、園としての重要課題である人材育成と職場環境、職員重視の方針を踏まえた内容に昇華させた目標設定をしており、組織力向上のための発展的な取組となっている。高く評価したい取組である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
パンフレットには、園で大切にしている事や園の保育をわかりやすく記載している 園内で職員が企画して作成したパンフレットは、園名にちなんで、駅のホームの行き先看板(駅名標)を表紙に取り入れた可愛いデザインであり、園として大切にしている思いが、基本方針やモットー、「先生たちの思い」の欄によく伝わる内容で記載され、とても親しみやすい内容となっている。一日の様子や行事についても写真付きでわかりやすく、また、よく行く公園もわかりやすく概要が記載されている。Q&Aも親切であり、園の保育についての説明が詳しい事で、保護者の園についての理解が進むような情報提供が来ている。 一時保育の希望者には専用のパンフレットを作り、利用のシステム等を丁寧に伝えている 見学希望は、実施している一時保育事業では年間を通じて見学がある。一時保育の希望者向けには「ごあんない」というパンフレットを作成して見学時等に配布しており、自主事業である会員制のナイトサービス、ポイントサービス、非会員制のビクターズサービスについて保育時間や料金を詳しく記載して案内している。また、在園児保育、一時保育のどちらの希望者からも、駅横の立地からの見学希望が多いが、園としては「園の保育」をよく知ってもらいたいという考えがあり、その点はしっかり伝えるようにしている。 見学時は保護者が知りたい事や園として伝えたい事を、丁寧にわかりやすく伝えている 在園児保育は秋口から見学希望が増えてくる。見学は予約も取るが希望があれば随時受け入れており、個別に実施している。また、何度でも来てくれるように伝えている。案内は園長、主任が主に担当し、案内時は園庭がビルの屋上であることは必ず伝えている。関連して戶外遊びについての質問も多いが、午前中の活動時だけでなく午後にも積極的に外に出ている事等を伝えている。また、保護者が製作する物はない事やおむつの処理は園で行なっている事を伝えている。よくある質問のQ&Aも作成して配布しており、必要な情報提供を丁寧にしている。			
	サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
保護者には資料説明とスライドの表示等で、入園時に必要な情報を丁寧に伝えている 入園前の説明会を例年2月末頃に実施しており、「入園のしおり」に沿って保護者に基本的な園のルール等必要事項の説明をしている。説明会ではパソコンのプレゼンテーション機能を使った説明を行っており、保護者が理解しやすいよう工夫がされている。全体説明会後は新入園児については園長や主任のほか、前年度の担任も動員して個人面談を行い個別の状況確認をしており、保護者意向等の内容は「新入園児面談記録」に詳細に記録している。 入園前の情報確認を入念に実施して受け入れ、入園後は人員配置等で環境を整えている 入園前の書類では慣らし保育の希望や生活面、食事、保健関係、生活習慣、遊び、その他の内容を保護者に記入してもらって受け入れ時の参考にしており、個別面談の記録は確認しやすいよう一覧表にして会議で周知している。その中で重要な事項は職員間で確認の上共有する事にしており、保護者の意向などにも注意して受け入れの準備がされている。利用開始当初は、特に0歳児クラスは職員配置を通常の4名から6名に、1、2カ月の間変更して円滑な保育のための対応をしている。慣らし保育は1日でも対応はしているが、基本的には最低3日～としている。 支援の継続性に配慮し、卒園児が卒後のつながりを持ちやすい環境がとられている 自主事業の一時預かり保育は小学校2年生までを対象としている。卒園児は保育料の割引制度を設定するなど卒園後のフォローがあり、働く保護者の安心に通じるサービスとなっている。卒園児には年賀状を送ったり、運動会などの行事に招待する事などしており、また、困った時にはいつでも遊びに来よう伝えたりしている。夕涼み会の行事に小学6年生の卒園児がボランティアで訪問したり、卒園児の高校生や大学生が実習生として訪問する事もある等、地域の中の保育園として卒園児とのつながりを保つことができている。			
サブカテゴリー3			
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		☐ 非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育士の視点を深めて様子を記録し、気づきを子ども個々の支援に活かしている

子ども一人ひとりの成長の記録や日々の様子は児童票、保育日誌等に記録されている。また、個人面談の内容も詳しく記録されている。子ども個々の状況や課題は週案会議で話し合われており、週ベースで子どもの状況(変化)等が把握されている点は大変丁寧な取組と言える。

保育指針を理解し、全体的な計画から各計画が詳細に作成されている

これまでの保育課程から全体的な計画が作成されている。指針に則った保育を行なう事は職員間で共有されており、全体的な計画の表記については今後も継続して検討してゆく意向がある。保育指導計画は0, 1, 2歳児までは個別計画が作成されている。また、異年齢計画は状況に合わせて細かく作成されている。例えば、1歳児では遊具、絵本、歌等の欄を設け、評価と反省が詳細に実施されている。計画の見直しは週案会議と定例会議で行っており、変化・変更があれば迅速に対応している。

記録を各クラスで保管し、常に確認して保育にあたる事を周知し、徹底している

会議録は紙で出力し各クラスに配布しており、各クラスでいつでも見られるようファイルしている。職員には、必要な時に会議録などの書類を確認する事を伝え、自分で見ると確認することを習慣づけている。また、重要事項等について周知の漏れがないよう、日頃の連絡事項をまとめて会議で報告することや、具体的なこと等は職員園だよりも記載して周知している等、職員間での情報共有と連絡のモレをなくすことに留意し、徹底している。非常勤も会議録の閲覧をしている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
子どものプライバシーに配慮している 園内では誕生日の時や、園だより・クラスだよりに名前や写真を掲示・掲載する事もあるため、名前(上の名前、下の名前)や写真の利用について、同意の有無を保護者から確認している。ウェブページへの写真の掲示等については基本的にその都度確認している。保育の現場では、例えば、夏の水遊び実施時は、近隣に高い建物が出来た事から、目隠しで覆うのではなく、短パンとTシャツ着用にしており、また、子どものトイレにも一部ドアをつけ、年長児にはドア付きのトイレの利用を勧めている等、子どものプライバシーに配慮している。 その子らしさを大切に、個々をよく把握し、発達を理解した保育の実践に留意している ハンドブックには「子どもを一人ひとりの人間として尊重する」事が記載されている。保育日誌や児童票への記載からは子ども一人ひとりの状況を細かく見て把握することに留意している事が推察される。子どもの発達の理解については、年に2回程、市の心理相談員が来園し子どもの発達段階について詳しくアドバイスしてくれている。カンファレンスを職員皆で聞き、内容を皆で共有することに努めており、発達の状態を理解し子どもに接することを大切にしている。			
サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		☐ 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

事務業務や保育業務、安全等に関するマニュアルが整備され活用されている

マニュアルは散歩やアレルギー、新人指導、冷凍母乳、フロントマニュアル、虐待対応、エレベータ使用時の留意点、防災、避難対応、大雪、台風時などが整備されている。また、事故防止のためのガイドライン、事故発生時対応のガイドライン、戸外編の緊急対応マニュアル等が作成されている。今年度は園舎の改修工事が完了し、園舎内の環境が変わったのでマニュアルの大幅な見直しに取り組んでいる。

マニュアルの点検は毎年実施しており、更新された内容を職場全体で共有している

マニュアルの点検・見直しは園内研修チームが担当して3月に実施している。マニュアルの改定作業はクラスで分担し、各クラスで改定箇所に入力して、全体を見直して共有する手順がある。毎年の見直しはマニュアルの存在を再確認する機会であるとともに、更新内容を共有する機会となっており、見直し・更新する事で、活用できるマニュアルとしてその鮮度を維持している事は評価したい点であった。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている				
			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○ 非該当
評価項目1の講評				
個々の配慮事項を園全体で共有し、子どものその時の姿を捉えて環境設定をしている 子どもを皆(園全体)で支援するための体制をつくってゆく事を指向しており、子ども個々の配慮事項について園全体で共有し保育を実施している。また、子どもの姿や、やりたい事、している事等を見てその都度環境設定を変えるようにしており、子どもの状況把握を毎週行なう環境を週案ベースで設定している。ただし、計画には囚われないように留意し、その時の子どもの姿を優先している。現場視察時も、子どもたちがその時に興味を持っているおもちゃを察知して保育室に出しており、子どもたちの姿に合わせて変化を持たせていく工夫がされていた。 異年齢児がふれ合うことにより、互いの心を育む環境がある 4, 5歳児は常に一緒に活動している。そのほか、朝・夕の時間は合同保育を実施しており、年齢の違う子ども同士がふれ合うことにより、互いの心を育む環境がある。特別な配慮が必要な子どもを保育する場合は個別の指導計画を作成しており、気になる子については巡回指導員のアドバイスを受けたとともに会議で共有して園全体でみる事になっている。異文化の対応では異なる食文化に合わせた給食の提供等も行なっている。 子どもの声や表情、表現等を大切に一人ひとりの子どもの保育にあたっている けんかや子ども同士のトラブルは、子どもからのシグナルとして捉え、発達段階を理解して対応するようにしている。園として子どもの気持ちを軽んじたりしない事に留意しており、子どもの気持ちに配慮して仲介する事を心がけている。トラブルの時でも子どもの声、表現、表情等を大切にすることに留意しており、泣いている子だけケアしてしまうような事はしないようにしている。				
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている				
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○ 非該当

評価項目2の講評		
連絡帳への連絡と口頭での引継ぎにより日々の子どもの様子を保護者に伝え共有している 0～2歳児までは連絡帳を使用している。3歳児～5歳児は連絡ノートでのやり取りに変わる。3歳児に進級した際に園でノートを用意して渡し、必要に応じて連絡を書き込み活用している。朝の受け入れ時には保護者からの連絡事項を聞き取り、視診、触診を行って記録している。朝から夕方までの連絡事項はすべて「引き継ぎノート」に記録しており、お迎えの際に伝えて保護者と情報を共有できるようにしている。また、17時以降の子どもは「遅番表」に記録して引継ぎ連絡をしている。 離乳食やトイレ等は個別対応であり、職員間で情報共有をして進めている 食事、排泄は基本的には子どもの発達に沿って実施しているため、0～2歳児は完全な個別対応となっている。実施時は保護者と話し合い、記録を残し進めている。食事マナーについては栄養士が子どもに対し姿勢を教えたりしている。食事のマナーや環境については給食会議で共有しているほか、トイレトレーニングやパンツへの移行等についても職員間で情報を共有して進めている。 休息は子どもの生活リズムや個々の状況に配慮して取っている 子どもの状況を見ながら睡眠時間の確保をしており、午前寝等、設定された昼寝の時間以外でも個々に合わせた睡眠が出来るよう配慮している。午睡時は薄暗い明るさに設定して安定した睡眠がとれる環境にしている。年長児はその年のクラスの状況にもよるが、基本的には年明け頃から就学前の準備を開始し、徐々に午睡を取らないようにして小学校の入学に備えている。		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当
評価項目3の講評		
記どもたちの希望や意欲を尊重して遊び込める環境を設定している 子どもたちが使いたい玩具を使えるよう、玩具をクラスで固定せず、幅広く使用できるようにしている。また、つくりかけの玩具を残して続きの遊びが成り立つよう配慮がされている。コーナー設定では遊びや活動によって机の位置を動かしてスペースを変える等の工夫をしている。現場視察時は机のコーナーを静の活動のコーナーとして使用し、広いスペースでは子どもたちの希望を聞いて遊び込める環境設定の工夫をしていた。 さまざまな表現を楽しみ、また、ルールや約束事等を学ぶ機会を設けている 普段読み聞かせている本の中で子どもが好きな話は発表会のテーマとなる事も多い。1歳児は「3匹の子ぶた」を読み聞かせたところ、子どもがお話を好きになったので今年度の発表会で実施した。2歳児は「プレーメンの音楽隊」であった。大きい子は鬼ごっこや花いちもんめ等の遊びや、トランプ、ボードゲーム等、ルールのある遊びや、お当番活動からルールや役割を学ぶことができる。当番は朝の会の挨拶や箸配り等、給食・おやつ準備の手伝い、また、毎週火曜日にお米とぎの当番活動がある。諍いからも子ども同士が学べるよう職員は見守っている。 戸外での活動を実施し、身近な自然や社会とのかかわりを豊富に持つ事ができている 天気の良い日はほとんど戸外で活動をしている。戸外ではさまざまな公園のほか、図書館や児童館などにも足を運んでおり、外に出ることで経験し学ぶ機会を多く持つようにしている。近隣には公園がたくさんあるため、鬼ごっこや走り回りたいときは2～30分ほど歩いて広い公園へ行ったり、季節の草花やどんぐり、松ぼっくり、たけのこ、セミ、カエルなどの虫探しなどは自然豊かな公園に行く等、活動や年齢に応じて使い分けている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
子どもの意思や選択を尊重して行事の計画を進め、その過程を楽しんでもらっている 大きな行事としては遠足、夕涼み、運動会、生活発表会等がある。生活発表会では各クラスの普段の生活の中から発表のテーマを見つけている。また、大きい子は劇の役や演奏する楽器を自分たちだけで決めること等をしており、「自分で」という気持ちから、自発性や意欲につながっている。発表会で使用する背景などの製作は子どもと一緒に進んでおり、保護者に披露する事や見てもらう事などで動機付け、子どもに楽しんでもらい、保護者には成長の姿を見てもらっている。 やり遂げた達成感やその事で得られる自信等を大切に行事に取り組んでいる 行事の取組は子どもたちの発達に合わせて設定している。運動会では体操教室の延長で組体操等を実施している。また、3、4、5歳児の混合競技で、3歳児から4歳児、5歳児へと順にバトンをつないで走るリレーの競技があり、みんなで走りきる事を目的として実施している。行事では、競技の練習の中で当初はうまくいかなかった事ができるようになる達成感や、最後まで頑張れたことで得られる自信、達成感や自信につながる本番までの過程も等を大切にしている。 行事の様子や準備の過程は掲示やクラスだよりで保護者に伝えられている 日頃の活動の様子や行事の様子はホワイトボードに掲示して保護者に伝えている。行事の様子等は写真付きで掲示しており、また、行事の準備状況等もホワイトボードやクラスだよりで保護者に伝えている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
遅番担当職員が日中の様子を詳しく引き継ぎ、状況を確認して勤務に入っている 遅番時間帯の保育の充実を図っている。遅番担当の職員は保育室での勤務開始前に各クラスを回って状況を把握してから保育に入るようにしており、また、遊びの内容についても引き継ぎをしている。子どもからは玩具や遊具等、やりたいことやあそびの希望を聞いてそれを用意する等、延長の時間であっても子どもが好きな遊び等をして、楽しく、落ち着いて過ごせる環境の設定をする事を心がけている。 いつもの職員が入る事等で、子どもが安心して、落ち着いて過ごせるよう配慮している 基本的にフォローに入る職員は固定して、保育する子どもの事をよく知った職員が担当するよう配慮している。体調が悪い子は事務所で休ませ、少しゴロゴロしている子がいたら布団を出して休ませる等、子ども一人ひとりの状況を担当職員がよく見て個々の対応をする事に留意している。19:00以降は子どもも減って遊びも変わるの、静かに落ち着いて過ごせるような環境にしている。 夕方以降の時間帯の職員配置を変更し、保護者との接点を極力多く持つよう留意している 夕方は平成30年度から時間帯の人員配置を変更しており、クラスの担任が18:00までは残るようにしている。また、連絡事項があり、直接伝え方が良い場合は担任が遅い時間まで残る事もあり、それができない場合は電話での連絡などを行っている。全員で子ども全員を見るという姿勢のもと、保護者との接点も多く持つよう留意している。			

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当	● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当	● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
評価	標準項目															
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当														
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当														
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当														
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当														
	評価項目6の講評 給食と保育で連携し、職員も子どもと同じくらい楽しみにしている給食が提供されている 給食の時間は職員も一緒に食べることで、「おいしいね」等の声かけや、年齢毎のマナーも伝えている。給食の様子は日常的に調理室の職員が巡回して確認しており、子どもたちが食べる様子を見て、子どもの声を直接聞いている。調理室前には調理室が作成した食に関する楽しい掲示がされている。保育士も子どもと同じくらい毎日の給食を楽しみにしているとのことであり、給食会議等で保育と調理が連携し、風通しを良くして毎日の給食の提供に取り組んでいる点は素晴らしく、園の給食の質を高く保つための大きな要因となっているものと推察された。 おいしさにこだわり、バラエティー豊かな献立を工夫して提供している 子どもが食べた様子を見て、味付け等に関して喫食表に記録しており、大人も子どもも同じものを食べ、感想を書いている。給食では、栄養士は「薄味も大切だが基本はおいしくする事」を大切にしている。その上で食に関心を持つことを大事にしている。献立はマンネリ化しないよう工夫がされている。以前、日本全国の郷土料理をメニューに取り入れたことで献立の幅が広がったこともあり、また、今年度は運動会の組体操のテーマが世界遺産だったため、世界を学ぶ機会として、献立にカタカナで外国の名前・献立を取り入れること等もしている。 お米とぎ等、日常の保育の中での食育が実施されている 感染症の時期は調理保育を控え、衛生面にも配慮して計画的に食育を実施している。3歳児～5歳児は12～2月を除き月に1回調理保育を行っている。例えば2歳児であれば、ピーマンの種取りや梅ジュースづくり、皮むき等のお手伝いをする経験をして食に親しんでいる。また、毎週火曜日には米とぎ当番活動も行なっており、日常的な食育が実施されている。															
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当	● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当			
評価	標準項目															
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当														
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当														
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当														

評価項目7の講評		
年齢に応じた保健指導を実施して、けがや病気の予防のための知識を子どもに伝えている 保健指導では、4、5歳児の子どもには、例えば、くしゃみの仕方や手洗いうがいの仕方などを担任から伝えている。また、3歳以上児を対象に看護師から手洗い指導、歯磨き指導等が伝えられている。小さな年齢であれば指導時に手洗いの歌を歌ってもらう等、年齢に応じた方法で健康維持のための情報を子どもたちに伝えている。外出先の公園では遊ぶ前にその都度、注意事項を伝えている。 室内を清潔で衛生的な状態に保ち、医療機関との連携をして健康の維持に取り組んでいる タオルは基本的にペーパータオルを使用している。調乳室内は衛生的に清潔が保たれており、哺乳瓶や流し台の周り等、きれいに整理整頓されている。空調と床暖房で保育室内の温度調整を行っている。空調に加湿機能がついているが空調だけでは乾燥してしまうため、濡れタオル等で工夫をして湿度の調整がされている。 看護師は一日2回巡回し、健康観察を実施している。0歳児は毎月健診を実施しており、嘱託医が来訪した際は子どもの相談に応じてもらっている。また、感染症の情報を得る等で連携して子どものケアに取り組んでいる。 SIDS予防や緊急対応が必要な場合の処置はマニュアル化して対応の徹底を図っている SIDS予防や心肺蘇生、痙攣、熱中症、アレルギー反応への対応など緊急を要する事については緊急対応マニュアルに対処法や資料をまとめ、園全体で共有している。SIDSの予防では0歳児は5分、1歳児は10分、2～5歳児は15分毎に呼吸と寝方を確認して記録し、俯せ寝のままにしないようにしている。		
8 評価項目8		
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当
評価項目8の講評		
保護者個々との情報共有を丁寧に行ない、必要に応じた相談対応がされている 連絡帳は0歳児～2歳児までは複写式を用いて毎日保護者とやりとりをして子どもの情報を共有している。3歳児～5歳児については個別にノートを用意して毎日持ってきてもらっており、必要に応じ、個々に応じた頻度や密度で利用されている。各クラスでは連絡帳の内容から子どもについての心配事について把握してそれぞれ対応しており、保護者が不安定な状態にある時などは、園長が相談の対応をする等で精神的なサポートも実施している。また、保護者との個人面談を年2回実施し、その中で個々の家庭状況や子どもの状況を聞きとっている。 懇談会や保育参加により、子どもの姿や子育ての認識共有に取り組んでいる 懇談会は担任がメインとなり各クラスで実施されている。懇談会では子ども一人ひとりについて成長した事を話し合う場をつくっており、保護者同士や園と保護者間の認識の共有に努めている。 保育参加は0～5歳児までの全クラスで、実施期間を例えば、3歳児であれば1週間、4、5歳は2週間に設定し、希望により実施している。保育園で子どもと一緒に過ごす事で、子どもの姿を知ってもらい、子育てに関する認識を深めてもらっている。 「保護者との保育の共有」を目的として、情報を保護者にわかりやすく伝えている 入口付近には、給食やおやつ写真、行政からのお知らせ、職員紹介、卒園生の卒園製作等を掲示・展示しているほか、保育室では保育の様子や子どもたちの表情・様子が文字と写真で掲示されている。その他、苦情や意見への回答等も含め、保護者との情報共有が丁寧に行なわれている。保護者との連絡では園だよりやお知らせのほか、メールも活用しており、伝えたい事を適切な媒体で詳しく周知することにより、誤解や情報の行き違いがないよう留意している。これらは「保護者との保育の共有」を目的とした「見える化」の一環で実施されている。		

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

近隣地域のさまざまな社会資源を保育に活用している

外出時は日常的に図書館、児童館等の市の公共施設等を利用しているほか、最近駅の反対側にできたツインタワーにあるテラスに行ったり、駅ビル内の子ども広場等も散歩時に利用している。また、近隣のスイミングセンターで水泳教室を実施する等、地域の社会資源を有効に活用している。

地域との自然な交流を意識し、徐々にかたちづくられてきている

園長は繰り返し、地域で求められる園であるために！という事を職員に伝えている。園として地域との自然な交流を意識し、それを職員にも伝えることで、例えば、公園で地域の在宅親子と触れ合う等、最近はいつもの保育の中で地域とのつながりが出来てきている。勤労感謝の日は日頃付き合いがあり、お世話になっている鉄道会社、駅ビル、食材業者を招待して、手作りのパンとバターを振る舞っており、地域の人との交流機会になっているとともに、地域との良好な関係を維持し、高めていく事に努めている。

地域との日常的な交流から新しい取組等が生まれている

園の子どもが製作した作品は、国分寺駅北口にできた再開発ツインタワービル「cocobunji」で開催されているシルバー（人材）フェスティバルで展示されている。シルバー人材センターからの紹介があり実現したものであり、地域とのつながりの中から生まれた取組となっている。尚、ビルの名称である「cocobunji」は、国分寺キッズステーションの園長が応募した名称が採用されたものであり、地域とのつながりを大切にする園長の思いがきっかけとなり、地域との交流が広がっている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	調理保育は長年の取組として継続しており、細やかに計画され、楽しく実施されている	
内容①	食育計画は調理保育や活動、保護者への働きかけ等が記載され、大変細やかに作成されている。調理保育ではホットケーキ、おにぎりづくりのほか、コンロを使ってのりの佃煮づくりや豚しゃぶ、アイスキャンデーづくり等も楽しんでおり、豚しゃぶは肉の色の変化を知る、アイスキャンデーは氷ができる様子を知る等、目的を持って楽しく実施されている。スイカ割り、お泊り保育でのカレー等のイベントもある。味噌づくりでは大豆を器に入れることから開始し、年度末にはできた味噌を使って豚汁づくりをしている。豚汁づくりには1歳から参加している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	水泳教室やリズム英語、体操教室を活動に取り入れ、皆で体を動かす機会を設けている	
内容②	3歳児から月2回、外部の指導員による体操教室を実施している。室内ではマット等、戸外では鉄棒やボール運動遊び等を行い、体の動かし方、道具の使い方、バランス、遊び方等を学べる活動となっている。また、1歳児から月2回、リズム英語を実施している。そのほか、4,5歳児は月2回水泳教室を実施している。教室の日はみんなで近所のスクールまで歩いていき、講師に習っている。屋上で水遊びは実施しているが、水に浮く経験や水に顔をつける経験は園内の活動では難しいため、少しずつ慣れるように就学に向けた取り組みの一環として実施している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	自己肯定感を高めるための研修や小グループ会議から新たな気づきが得られている	
内容③	園内の様子のビデオ撮影して、研修でその様子を見て感想や気づきを伝え合うこと等で、保育についての職員の認識共有やコミュニケーションの向上に取り組んでいる。また、会議では危機管理や食育等のテーマについて小グループでの話し合い等も実施している。話し合いの中で各自が感じたことを記録し皆で共有しており、共感を得たり、新たな課題を発見することもある。新たな課題がプロジェクトに発展する事もあり、これらの取組が、職員相互の理解促進やチームワークの向上、仕事に誇りを持つことや職員の自信となり、組織力を高めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「その子らしさを大切にする保育」の実践に向け、子ども一人ひとりの「今」の姿をしっかりと捉えて保育の環境づくりをしている
	内容	「その子らしさを大切にする保育」を基本方針に掲げ、また、職員の思いとしても明確にして日々の保育にあたっている。現場視察では、コーナーあそびをその時の子どもの姿に応じて流動的に設定しており、また、玩具等もその時の子どもの興味や関心に合わせて選択していた。子どもの状況を毎週の計画作成時に職員間で把握するとともに、子どもの「今」を個々の職員が理解するよう、表情や声、表現にも目を配り、子ども個々に合わせた保育、援助の実践に取り組んでおり、子どもたちの姿を深くとらえることで理念・方針に沿った環境づくりがされている。
2	タイトル	保育日誌の確認を通じ、現場の保育士に向けて大変丁寧なOJTが実施されている
	内容	保育日誌には子ども一人ひとりについて細やかな記録をしている。また、子ども個々に対する保育士の視点に対し、園長と主任が分担して、これも丁寧なコメントをする事で、子ども個々の状況への気づき大切に保育につなげている。保育士が感じた事への共感や新しい気づき等を大事にすることで、保育実践の楽しさにつなげたいという園長の思いから実施しており、保育士のメンタルや意欲等も日誌から把握できるため、現場の保育士に向けた大変好ましいOJTとなっている。
3	タイトル	職員を大切にする姿勢を根本的価値観として持ち、人材育成の体制づくりを着実に実行している
	内容	職員に期待する人材像を明確にして育成を図っており、ここ数年は人材も定着している。新任指導はプロジェクトチームを発足させ、新人を育てる目的で「振り返り会議」という会議を年に3、4回実施する等、園全体が関心を持って新人を育成・指導している。2年目の職員に対しても実施しており、また、自己肯定感を高める研修等を取り入れる等、職員個々の育成の体制づくりに注力している。人材育成の根本には職員を大事にしたいという思いがあり、「職員が保育を楽しむことができる職場」を理念の一つに掲げて、一つひとつの施策を丁寧に進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中長期の保育事業の展望を計画として示す事を期待したい
	内容	単年度計画は中期的な視点を持って計画されており、年度の重点施策(課題)は、実行される各活動について年度の振り返りがなされた上で次年度に引き継がれ計画に反映されている。また、個々の実施事項はプロジェクトチームが担当する事も多く、組織的かつ計画的な取組となっている。ただし、単年度計画のもとになる中長期の計画が明示されていないため、その点を明確にすると方向性や目指す事もより一層明らかになり、中長期的な視点での進捗管理も行ないやすくなるものと考えられるため、今後の課題として策定の検討をする事を期待したい。
2	タイトル	人材育成の体制を一層明確に構築する事を期待したい
	内容	園内の人材育成の各施策は、プロジェクトによる新任指導や、ワールドカフェを取り入れた会議の実施、少人数でのグループワーク、ビデオ研修等、比較的新しい視点を取り入れて独自に構築した取組も多く評価したい点となっている。ただし、キャリアパスと連動した内容というわけではなく、人材育成の基本的な体系を示すためのキャリアパスの工夫やキャリアパスに沿った体系的な研修体制の整備等も今後行なってゆく事で、一層明確な人材育成の体制を構築する事を期待したい。
3	タイトル	事業継続計画は有用性の検証をするとともに、具体的な行動のための整備を期待したい
	内容	危機管理プロジェクトでは日頃の保育におけるリスクの洗い出しに取り組み、ヒヤリハットの検証や食育チームと連携したマニュアルの作成等を行なっている。また、食事、睡眠、水遊び、玩具等の項目でリスクを洗い出し、安全性の向上に取り組んでいる。事業継続計画(BCP)は作成されているものの、若干方針的な内容でもあるため、大規模災害時に具体的な対応ができるよう現行の体制を整理し、整備する事を勧めたい。